

我々は何をなすべきか

The Future of Hyper-Aged Society

池田光徳

(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)

奥島科研・研究会

2013年6月29日

天理大学・研究棟3階・共同研究室



2012年3月



2013年3月



2013年3月

EPA研究の時系列

- 1) EPAをめぐる外国人材の受け入れの政府決定（歴史的文脈）
- 2) EPA派遣人材をめぐる研修／資格試験／方向性に関する現実的問題（社会的文脈）
- 3) EPA派遣者への具体的支援（実践的文脈）
- 4) 上述の社会現象に関する状況分析
- 5) 上述の現象への政治的介入

移民研究

- 歴史的アプローチ
- 制度社会的アプローチ
- 経済的アプローチ（人口論を含む）
- 個別アプローチ（民族誌、社会言語学、ジェンダー論）

ジェンダー問題

- 国境を越えた「感情労働」論（“emotional labor” in transnational context）
- ホックシールドの感情労働論は、ゴッフマンとマルクスの議論の統合。成功した面と不完全な面を自覚しない「感情」のみに焦点化した議論はナンセンス
- 搾取労働論（ルクセンブルグ）の導入が必要かもしれない。

言語問題

- 理論的／応用的関心
- 現実的問題
- 言語使用における「社会差別」論
- 実践的介入は、すべてのテーマに関して、顕著な問題解決には貢献していない

人口問題

- population: 個体数、頭数、生物学的、統計的現象
- demography: demos=群衆・民、-graphy=記述、政治経済的、政治社会的現象

アジア人口問題テーゼ

- アジアの経済成長は人口ボーナスによる可能性が高い。
- アジアの人口構造が変化し、それを「放置」しておくと、同地域における経済問題を鈍化させ、今後、同地域における社会に大きな問題となる。
- 小峰隆夫+日本経済研究センター編『超長期予測老いるアジア』日経新聞社、2007年

人口問題と技術刷新

- 人口トレンドは比較的予測しやすい
- 予測し難いのは技術イノベーション (IT・エネルギー) と政治変動要因 (冷戦構造、テロリズム、虐殺)
- 人口ボーナス<v.s.>人口オーナス
- 日本は1950-70s=bonus, 95-=onus
- アジア65-70=beginning bonus, 2K-=onus

人口増加と高齢化

- | | |
|-----------------|-------------------|
| • <u>2005</u> → | • <u>2050</u> |
| • 65億 (世界) → | • 95億 (14.6億人) 人口 |
| • 1.3億 (日本) → | • 9千万・人口 |
| • 7.3% (世界) → | • 15.5% (65歳以上) |
| • 20.2% (日本) → | • 40.0% (65歳以上) |